

こどもの事故予防

こどもの事故の実態

1～9歳のこどもの死因の第1位は「不慮の事故」です。その原因は年齢で異なり0歳児では窒息が7割以上と多いのですが、1～4歳では交通事故とおぼれで6割、5～9歳では交通事故が4割以上となります。また、兵庫県の調査では、3歳までに8割程度のこどもが、落ちた・転んだ・やけど・誤飲などの事故を経験しています。

どのようにして事故を予防する？

こどもを取り巻く環境には、事故の原因となるものがたくさんあります。「大人がこどもから目を離さない！」これはとても大切なことですが、これだけでは事故は予防できません。

「目を離しても大丈夫！」という環境を前もって整えておくことが大切です。こどもの目の高さで周囲を見回し、危険なものがないか日ごろから確認しておきましょう。

月齢・年齢別に見る不慮の事故

	誕生	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月	10か月	11か月	12か月	13か月	1歳半	2歳	3歳	3～5歳
運動機能の発達		●体や足をバタバタさせる	●見たものに手を出す	●寝返りをうつ	●座る	●ものをつかむ	●はう	●家具につかまり立ちする	●一人歩きをする	●スイッチノブを触る	●走るのほる	●階段ののぼり	●高い所へのぼる			
誤飲窒息		マクラ、柔らかいフソによる窒息		何でも口に	小物、たばこ、小さなおもちゃの誤飲	よだれかけひもコード	ナッツ豆類		薬、化粧品						ビニール袋	
おぼれ		入浴時の事故													プール、川、海での事故	
切りきず打撲			床にある鋭いもの		鋭い角のあるおもちゃ		家具、建具の鋭い角	かみそりでのいたずら		テーブルの鋭い角	ドアのガラス	ドアに手をはさむ	引き出しの角など			屋外での石など
やけど		熱いミルク		ポット、飲物			炊飯器、スープレッダー、アイロン									マッチ、ライター、湯沸かし器、花火
転落		親が誤ってこどもを落とす	ベットのソファからの転落		歩行器による転落	階段からの転落	バギーや椅子からの転落	浴槽への転落		階段ののぼり	おりの転落		窓、バルコニーからの転落			すべり台、ブランコ
交通事故								通りでのおぼれ					母親との自転車2人乗り			三輪車の事故、自転車の事故

出典：「子どもの事故予防と応急手当マニュアル」 編集：公益財団法人母子衛生研究会 発行：(株)母子保健事業団

事故予防のポイント

誤飲・窒息に注意!

- 赤ちゃんの敷布団は固めのものを選び、うつぶせ寝はさせない
- タオルや布団で赤ちゃんの顔を覆わない
- ベビーベッドとマットレスの間に隙間を作らない
- たばこ(灰皿)、薬品、洗剤、化粧品、硬貨、ボタン電池、磁石、ビー玉、鉛玉、ピーナッツ、ビニール袋、ひもなどを赤ちゃんの手の届くところに置かない

転倒・転落・外傷・打撲に注意!

- ベビーベッドの柵は上げておく
- 赤ちゃんをソファに一人で寝かせない
- ドアや窓の開け閉めに注意する
- 角のとがったテーブルなどの家具にはカバーをつける
- 玄関や階段など段差のあるところには転落防止柵をつける
- ベランダや窓側に踏み台になるものを置かない
- ドアの蝶つがいに指が入らないようカバーをつける
- 歯ブラシ・フォークなどを口にくわえたまま歩かせない
- こども用のいすは安定設計のものを使う
- 三輪車(自転車)に乗る時ヘルメットをかぶせる

やけどに注意!

- 熱いお茶、コーヒー、味噌汁、カップラーメンをテーブルの端に置かない
- テーブルクロスは使わない
- 熱い鍋・アイロン・ポット・炊飯ジャーなどをこどもの手の届くところに置かない
- コンセントにはコンセントカバーをつける
- シャワーの温度は低い温度に設定しておく
- ストーブ・ヒーターにはガードをつける
- ライターやマッチは手の届くところに置かない

溺水に注意!

- 入浴中に赤ちゃんから目を離さない
- 浴室に鍵をかけ、浴槽や洗濯機の水はすべて抜いておく
- 水遊び川遊びには必ず大人がついていき、ライフジャケットを着用させる

交通事故に注意!

- チャイルドシートを正しく使う
- こどもと手をつないで、大人が車道側を歩く
- こどもに交通ルールを教える(歩道を歩く、飛び出しをしない、横断歩道や歩道橋をつかう、信号機の見方など)

救急車を呼ぶとき
発熱
けいれん
下痢 腹痛 嘔吐
咳 喘息 息苦しい
泣きやまない
発疹
異常 耳鼻の異常
口の異常 頭をぶつけた
やけど
お腹をぶつけた
切り傷 擦り傷
誤飲
こどもの心肺蘇生
A E D
こどもの事故予防
上手に医者に伝える
小児救急の情報